測志会だより

発行者　測　志　会
〒546-0023
大阪市東住吉区矢田1-5-9
近畿測量専門学校 内
TEL：06-6607-5650
FAX：06-6607-8830
http://www.kinsoku.ac.jp/sokushikai/
Mail: sokushikai@kinsoku.ac.jp

測志会と職責

副会長　井上　善嗣

青葉の候、皆様にはますます御繁栄の事とお喜び申し上げます。一昨年より副会長を仰せつかっております井上でございます。平素は何かと測志会にご理解とご協力を賜り心より感謝を申し上げます。

私は平成二年三月に近畿測量専門学校を卒業以来、公共事業を生業とする測量設計業を営んでおります。今まで多種多様な業務を遂行する中で、近畿測量専門学校で学んだことが役立つ事例も多くあり、母校に対する感謝の気持ちは言葉では表せない程です。

ここ数年異常気象が続いております。毎年多数の強力な台風が発生していますし、今年は四月にも関わらず日本全体が異常な暑さにみまわれるなど、過去では考えられなかった自然環境の変化を経験しています。当社は例年、河川流量観測業務を受注する機会が多く、台風襲来時には河川水位上昇にともなう高水流量観測を実施しています。翌日から洪水痕跡調査を行い水害による被災状況を調査しますが、ここ数年これらの作業の出動頻度が以前とは比較にならない位に上昇しています。

過去、多発する台風被害の災害復旧測量設計業務を多数実施して参りました。私は災害対応業務は通常の業務とは違うものだと考えておりますし、社員にもそう伝えております。何より被災されている住民の方々のために、利益や経費というものは度外視して対応する事にしています。災害対応時には天職を全うするんだと言い聞かせています。

その時にいつも思うのは母校の同窓生です。日本全国で同じ様に災害対応に汗を流されている皆さんがいらっしゃるはずです。苦労されている皆さんのことを考えますと、自分自身の気持ちを奮い立たせる存在であると考えております。測志会の皆さんが私の職責を果たすというモチベーションを上げてくれる存在であります。

我々をとりまく環境は大きく変わろうとしています。新たな技術にも挑戦していかなくてはなりません。お互いに切磋琢磨していく良い機会を与えてくれる場として測志会があると思います。

最後になりますが、測志会のますますの発展と皆様のご活躍を心から祈念いたします。総会および、懇親会の参加者も年々増加しています。今まで以上に本会を盛り上げて頂きます様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

地理情報システムの実習

講師（14期生）　西端　憲治

二〇一四年から地理情報システムの講師を担当している西端憲治です。講師5年目、近測14期生です。日頃は、現役で地図に関する情報処理業務を行っており、週一日だけ授業を担当しております。

講師になったきっかけは、二〇一三年に自作フリーソフトで電子国土賞を受賞し、その報告を兼ねて学校に訪問したとき、お話をいただきました。学校で地理情報システムの実務と最新技術を教えたいとのことで、若い人の力になることができるならばと思い、引き受けしました。科目が地理情報システムですので、すべてパソコン教室での実習です。授業に使うアプリは、自宅でも練習できるようにQGISを使用しています。実習内容は自分が実際に行ったことがある業務で、まず、避難所ルートマップづくり。学校から近隣の避難所までの避難ルートマップをつくり、実測の図面とは異なる地図の作成にも親しんでもらうことと、防災への意識を高めることができると考えました。次に、自治体の地形データ更新。自治体から教育目的でデータ利用の許可をもらい、自分が実際に行った地形データの更新方法を教えています。これは、将来、地理情報システムの仕事に就いたときの基礎力となることを考えております。そして、地域分析。大都市の人口や事業所の分布の分析で、実際に仕事をさせていただいた機関からデータをお借りし、その手法を教えています。これで地理情報システムの応用力を習得してもらいたいと考えています。

授業で使うテキストはすべて手づくりです。1年目は少し緊張し、テキストづくりにも大変でしたが、2年目は緊張もなくなり楽しく授業ができ、3年目には少し余裕がでてテキストを改訂しました。4年目は新テキストで授業を行い、現在の5年目となっています。今後は、土地利用データを作成してトポロジー編集やOpen Street Mapを使ったWEBGIS、その他観光やレジャーの地図にも触れ、測量技術者として専門知識と新しい分野に目を向けることも習得できるようにと願っています。

最後になりましたが、測志会の皆さまのご発展とご多幸をお祈りします。

日本の人口は二千人になるかも?!

校長　濵口　栄

日本の人口は二千人になる。なんともショッキングな話である。こんなことが起こるのは三百年後らしい。信頼のできるデータのようで、出生数の減少、高齢者の激増そして社会の支え手の不足。これらが互いに絡み合って人口減少が起こり二千人になるらしい。測量士のなり手が激減している現況はなにも近畿測量専門学校に限ったことではない。どこの測専も定員割れが起きているのである。こんな状況では高度な人材を送り出すことができなくなる。それどころか、日本には測量士がいなくなるかもしれないのだ。そんなことで社会が機能するだろうか。

こんな内容の本を本屋で立ち読みをした。専門学校よりも死活問題なのは大学だろう。学生が集まらないので大学が消滅する。すでに淘汰の時代に入っているのである。大学では入学者対策作戦を早くから取り組んでいる。しかし、子どもが増えないのが一番の致命傷である。淘汰されて母校が消えることは何よりも哀しい。今年の入学者数は52名であった。情報科2年次を合わせると全校生数は91名である。なんとか持ちこたえている。ひとつの家族に子どもが2人いて楽しいファミリーという図式は今後、崩れていくのだろうか。一九九五年の統計によると「一人暮らし」の割合は全体の26%だそうだ。二〇一五年のデータによると35%で一人暮らしは600万人と出ている。この原因は「子どもと同居しない」「結婚しない」「離婚率は3組に1組」のようである。二〇二四年には3人に1人が65歳になり日本は「超・高齢者大国」になると数字がはじき出している。団塊の世代が全員75歳になる計算である。そこに加えて二〇二六年には認知症患者が700万人規模になるという。どうしますか。若い人がいないから輸血用の血液が不足しているらしい。近測はもう30年も献血に協力をしていて、卒業生の方なら献血の経験もおありだと思う。しかし、これも今までのようにはいかなくなる。UAVなど新しい技術が開発、実用化されているが、現在全国では空き家数は約820万戸、総住宅数6000万戸だとすれば8軒に1軒は空き家状態である。もちろん地方の現状だが、二〇三〇年には全国の住宅の3戸に1戸が空き家になるという。空の上から見る地図はガラガラのぼろぼろのぺんぺん草状態になるかもしれない。

だから、我々は今、何をするべきなのかを考え、知恵を絞る時がきているのである。

平成29年度 会計報告

■ 収入の部

前年度繰越金	¥4, 495, 753
終身会費	¥900, 000
総会寄付	¥175, 000
会報寄付	¥204, 610
懇親会費	¥412, 000
雑収入	¥411
合計	¥6, 187, 774

□ 支出の部

通信費	¥279, 779
事業費	¥1, 827, 322
事務費	¥4, 206
会合費	¥103, 334
慶弔費	¥10, 000
次年度繰越金	¥3, 963, 133
合計	¥6, 187, 774

第35回 測志会 総会・懇親会のご案内

日　　時：平成30年 6月23日（土）17時30分から
場　　所：ホテルバリタワー天王寺
（ＪＲ天王寺駅北口より東へ200m）
懇親会費：平成24年度以前の卒業生 3,000円
※近畿外在住 2,000円
平成25～29年度の卒業生 2,000円
在校生 1,000円
（当日、会場受付でお支払いください）

同期生お誘い合わせの上、多数ご参加ください